

同人作品

空色エンピツ 秋山義仁

未だ死なぬ生きおればいつでも会える父母兄弟我死ねば皆死ぬる

雨が来て乳房まで濡れ待てる君蚕くさい体抱きしめ暖める

鉛色した空の下赤いおべべの雪女掠い僕の妻にした

三界に家なしなんてそれは嘘この里みな女の女護の里

お土産に貰ったにわとり生きていた首しめ羽根ぬきバラして食べる

人形の白地以外は全て空空色エンピツでただ塗りつぶす

生きられる時間知らないでも生きる時間は五年位一千八百日

この十日は死んでいた無様に減った生きる時間が愛おしい

深き朱の停まる午後六時の吊り革つかまり流れに委せる
秋刀魚には頭あるなし人間は心あるなし同じではない

姫貞江ちゃん 石邊綾子

京都へと晦日の旅は雪景色おこしやすとは言われたものの
寝たきりの老婆は言うたよう来たと一晩だけの親戚孝行
ゆく年もくる年もなく蕎麦もなく冷たい布団の中で年越し
繰り言も三回までが限度かな窓の外には煩惱の雪
二十年先のわが身にならぬよう言い聞かせつつ雪道歩く
姫貞江ちゃん次に逢うのはいつになる春には家に来るいうけれど
北大路へ来た道帰る元旦にひとついのちの温もり背負い
怪し月は登る凍てつく東に空の下には相克の灯が

沸々と克己心おこり寅年の我に野生の風たちぬれば

千年の歴史は非凡のふきだまりめでためでたの獅子舞がゆく

冬至 井上省吾

柚子もって浴槽に入れ湯を沸かし体暖め冬至楽しむ

柚子の香がフロ場の内に一杯に大きく息をおもいきり吸う

湯に浮べ香楽しむ冬至の日柚子を手を持ちもて遊んでる

柚子香る湯舟に入りてリラックス冷えた体を暖めている

雪国の苦労も知らず喜んで積った雪を集め楽しむ

雪が降りあたり一面銀世界子供の様に心おどらす

窓の外風に吹かれて雪が舞う思わず見惚れしばし眺める

積る雪庭も畑も真っ白に道路も積もり車そろそろ

降る雪は見て美しく楽しむが後片付に一苦労する
道路にも雪が凍いてつるつるに長靴はいてそろそろ歩く
日向ぼこ日の光浴び座りこみ自然の力有難く受け
雨が降り気温さがりて雪となり湿り気おびて恵み与える
水瓶に氷が張りて寒さ増し新年の朝気をひきしめる
梅の枝蕾をつけて開花待つ今年はどんな姿見せるか
曇り空降りませぬかと様子見て洗濯物の心配をする
寒さにも負けずに咲いたボケの花白やピンクの色鮮かに
山茶花の花も咲きだし寒くても目で見て楽し心暖か
曇り空日射しが無くてひんやりと体冷えびえカイ口貼りつけ
切取りて水仙の花部屋の内沢山飾りいい香りする
床の間に赤と黄色の千両沢山飾り新年を待つ

寒くなり木の葉も落ちて草も枯春が来るまで草取りも無く

恋文 加山妙子

漆黒や灰色斑鳩まだらの羽根花水木の下そこ此処に落ちて

鳩の羽根拾ひてペンに仕立てみむブルーブラックインクに浸し

羽根ペンでしたためやうか恋文をはるかむかしのならはしのごと

詩人の死 熊谷恒樹

鉦山と林業で賑わったこの村も時の流れにおし流されて

カソ・カソとうつむく村にほんのりと道辺を照す裸電球

山峽にともし続けた小さな灯小さいけれど暖かだった

一陣の風は杉山を吹きわたり詩人は静かに眠りに就いた

返事 甲村秀雄

ひさかたのひかりさし入るわが部屋に前夜の返事はまだしてゐない

ヤツデ 甲村雅俊

何枚も虫に喰はれて穴あきの葉を広げたるヤツデが届く
窓際で葉の柄の長く垂れてをり冬を過ごせるわれのヤツデは
数珠を手に見据えてブロンズの旅姿なる親鸞聖人
親鸞のブロンズ像は植物の緑いろしてりんと坐します
嗚呼ヤツデ何をよけてかくの字形幹が曲がつて大きくなつた
わが暗き部屋に来たりて葉を広げ光の春にヤツデが育つ
屈託なく生きてゐたくばどこでもヤツデのごとく心を開け
葉を広げヤツデは物を言はざれど日の目をみたく思うてゐるか

カレンダーをめくり忘れてゐるうちに春の彼岸の近づく夕べ
植物がよく茂るわが部屋にゐて春夏秋冬うつりゆくなり
朝と夜往路と復路日がのぼり日が暮れるなりわれの歩みに

歩く 氷室敬子

ウツウツとねてばかりいると石になるさあ起きて足を動かそう
歩かんと起き上りて杖をつき一・二・三・四と数えながら昨夜の次男の「無理
するな」の声にしたがう
あつあつの卵がけごはんは忙がしかった母の知恵袋か

杖 本田洋子

真青な空にぽっかり鯨雲午後公園老犬の歩み

吹かずとも木枯らし一号の如き風 氷雨吹き荒れ凍えける朝
北海より雪の便りが届いた日シヨパンのマズルカに癒されて居り
杖つきて下ばかり見て歩く眼に水仙の花清らに写り
ベランダでパンジー一人咲いている寒いからとて水も貰えず
大寒にふきのとう見つけたと写メールくれし友は健脚
娘とはスープレの冷めぬ距離に無くそれでもおかず作り届ける
観音像やつと彫りたる一体は我が手に残り悲願一生

夢

天井に逆さ仏像現われし檜の座像大きな仏
青年はそれを天井に取り着ける吾の自転車を椅子代りに
愛用の青き自転車雲の中どんどん小さくなりて消えぬる

北京五輪二〇二二 若杉ゆき

結弦君成功すれば人類初四回転半挑戦した！

三連覇期待されながら表彰台逃した羽生全部だしきった！

今できる羽生結弦のアクセルのあれがベストだ後悔ないと

凜とした羽生結弦演技終え天を見上げる最後の雄姿か

歩夢君東京五輪スケボーに北京五輪でスノボーで金！

夏・冬と二足のわらじ履く歩夢異次元過ぎて曲芸みたい

ふつつつと湧き上がる気持ちパワーに変えトリプルコーク一四四〇成功！

東京の夏から半年北京五輪道なき道を歩夢二刀流！

優真君初出場銀メダル最年少無邪気にガッツ！